

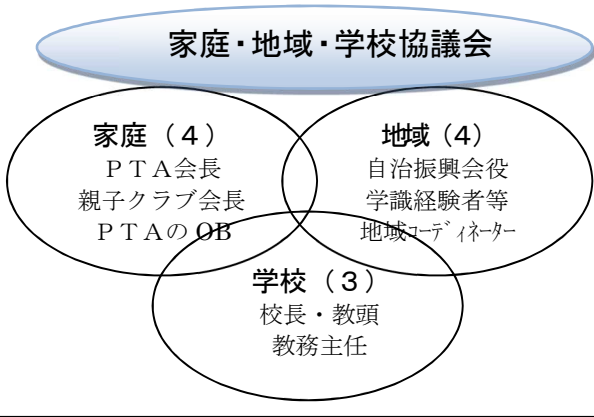
令和元年度 福井型コミュニティ・スクール 実施報告書

越前市岡本小学校

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

(2) 協議会の内容

 <p>家庭 (4) PTA会長 親子クラブ会長 PTAのOB</p> <p>地域 (4) 自治振興会役員 学識経験者等 地域コーディネーター</p> <p>学校 (3) 校長・教頭 教務主任</p>	<p>第1回 6月11日</p> <ul style="list-style-type: none">・本会の趣旨説明 活動方針・スクールプランや学力向上プラン、・取組の説明およびアドバイス <p>第2回 12月3日</p> <ul style="list-style-type: none">・学力調査と体力調査の結果について・学校や家庭の教育に対する意見交換 <p>第3回 2月28日</p> <ul style="list-style-type: none">・学校評価の分析、考察、検討・次年度への提言
<p>地域コーディネーター3名 (岡本公民館館長、越前和紙女紙クラブ会長、自治振興会青少年育成部)</p>	

(3) 協議会における成果と課題

学校公開時に授業や活動の様子を参観してもらい、新学習指導要領への取組について助言をもらった。また地域の情報を提供してもらうことで、地域と連携した活動を実践できた。子どもを取り巻く環境について、家庭・地域・学校に共通する課題があり、協力して取組むことの必要性を共有した。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

校区に伝わる越前和紙や中山間地の自然豊かな月尾地区の暮らしぶりなど、地域の宝について調べ、それらのPR方法などについて話し合い、地域へ貢献できることは何かについて考える。和紙の里に来館する観光客（外国人も含む）や、修学旅行先の奈良公園での外国人観光客を対象に、和紙の歴史などについて説明する活動を通して、地域を誇りに思う心を育成する。

(2) 活動の実際

①岡本子ども観光大使活動（6年生および4年生以上希望者）

これまで地域の協力を得ながら、伝統的な技法による越前和紙の紙漉き体験を全学年で行ってきた。学年に応じた様々な技法での体験を通して、子どもたちは越前和紙のすばらしさを身近に実感してきた。このすばらしさをどのように外部に向けて発信できるかについて考え、6年生を中心に「岡本子ども観光大使」となり、PR活動を推進している。昨年度に引き続き、パンフレット作成と、和紙クラブで作成した紙芝居「岡本の宝」を英語版で行った。

- ・5月の紙祭りのイベントで、希望者による英語紙芝居「岡本の伝統」を発表した。
- ・6月の市のこどもランドスペシャルで、アイパーク今立にて紙芝居を口演した。小さい子どもに合わせて、日本語と英語の両方で口演した。また他の紙芝居作家の方々との交流も行った。
- ・9月の修学旅行先で、パンフレットの配布と英語紙芝居で外国人中心にPR活動を行った。



②無農薬農法による稲作体験（5年生）

無農薬農法の手作業での田植えや稲刈り体験を行い、農業に携わる人の苦労や願いについて考えた。休日に自転車で苗の成長ぶりを観察に行く児童の姿も見られた。農薬を使って成長している稲の様子と見比べながら、無農薬農法の大変さについて考えることができた。

③伝統的な墨流し体験（5年生）

5年生では、水面に色墨と脂を交互に落とし、できた模様を和紙に写し取る墨流しを行った。水面に浮いた模様に息を吹きかけ複雑で神秘的な模様を越前和紙に写し取った。この和紙に、秋の短歌を書き、学習発表会や公民館祭りで発表した。



④デジタルコンテンツの製作（4年生）

4年生社会科には、「越前和紙」が取り上げられている。地元の4年生として他の地域の4年生に詳しく伝えられないかについて考えた。地の利を活かして地元の紙漉き工場や和紙の里三館を何回も訪ね、インタビューやアンケートを実施し、写真や映像を編集したデジタル資料集を製作した。市内で自由に活用できるようサーバーに格納し、伝統工芸の学習で活用できるようにした。

⑤PRキャラクターの製作（児童会）

数年前に児童会の発案でキャラクターを制作し、行事等で活用してきた。昨年は、和紙原料のこうぞ・みつまた・がんびをイメージしたミニキャラクターもデザインした。和紙王・和紙恵・こうぞう君・みっちゃん・がんびちゃんの和紙王ファミリーを地域に発信していくことをねらいとして、看板の作成をした。



（3）地域コーディネーターの活用概要

- ・紙の祭りに訪問する外国人観光客へのPR活動を行う発表会場の確保と補助。
- ・無農薬稲作農法に取り組む農家との連絡調整、地域のゲストティーチャーの紹介。
- ・和紙組合との連絡・調整。
- ・デジタルコンテンツ製作の内容のアドバイスや資料の提供。

（4）特に工夫した事項

- ・英語紙芝居「岡本の伝統」は、英語地域人材バンクに登録している保護者OBの協力を得た。
- ・無農薬農法体験では、事前は無農薬農法の意義や難しさなどについて話を聞いた。
- ・デジタルコンテンツ製作では、地元のネットワークを活用し、多くの工場や職人の生の声を取材した。

（5）成果と課題

○英語版紙芝居は、4年生以上の希望者を対象に昨年度からスタートしたが、今年度は上級生から下級生への教え合いがあり、複数学年で取り組んでいることの成果が出ている。また、紙芝居用の枠を作成し、より紙芝居口演らしくなった。

○学校以外の地域での活動は、緊張感はあるが、多様な地域の人との交流が生まれ、より深く調べ、丁寧にわかりやすく話そうとする態度が身についた。

○現地に行つての取材やインタビューを行ったことで、これまで以上に越前和紙について詳しく知ることができ、地域の伝統工芸に対する誇りを持つことができた。

▽越前和紙三館には、県内外はもとよりたくさんの観光客が訪れている。また多くの小学校も紙漉き体験に来ている。これらの訪問者を対象に、紙芝居などを中心にしたPR活動についてさらに検討していきたい。

